

富田林市農業振興ビジョン 概要版

1. 「富田林市農業振興ビジョン」とは

■目的: 国の都市農業振興基本法及びこれに基づく国及び大阪府の関係計画、農業経営基盤強化促進法等を踏まえ、本市農業の有する多様な機能の発揮を通じて、良好な農業振興に資することを目的に、「富田林市農業振興ビジョン」を策定します。

■期間: 令和4年度から令和13年度(2022年度～2031年度)の10年間とします。中間年次である令和8年度(2026年度)において中間見直しを行います。

■推進: 市が進行管理を行うとともに、施策の推進は市、府、農業者、JA、市民、事業者、農業委員会の各主体が連携し、ビジョンの実現に向けて取り組みます。特に、「富田林市農業推進連絡会議」を活用し、ビジョン推進に関する報告や、必要に応じて協議等を行います。

2. 本市農業の強みと弱み

強み	弱み(問題点)
<ul style="list-style-type: none">○大阪府内で農業産出額、農地面積、農家戸数ともにトップクラスであり、大阪の農業の屋台骨。 〔農家数: 1,094戸(2020)、農業産出額: 16.8億(2019)、農地面積: 645ha(田491ha、畑154ha)(2020)〕○施設野菜(なす、トマト、いちご)を中心に、えびいも、水稲など多様な営農スタイルがある○富田林市(約11万人)、南河内(約60万人)、大阪府(約870万人)の巨大マーケットに近接○農福連携や企業参入が既実践されている○創造する会、農業塾、おおきにアグリなど、頑張っている若手専業農家のつながりがあり活動が行われている。○サバーファームがあり、R元年度は約6.5万人、R2年度は約4万人が訪れている。	<ul style="list-style-type: none">○農地の継続的減少○農家数の減少○担い手の高齢化(後継者不足)○鳥獣害対策への負担○水稲を中心に作業受託のニーズが高まっている○都市的土地利用(住宅、工場等)と農地との隣接による双方の環境(営農、居住)の悪化(市街化区域等)

3. 本市農業の将来像(ビジョン)

本市農業の課題に対応し、農業を取り巻く新しい動向などを踏まえ、10年後の本市農業の将来像とその6つの柱を以下のように設定します。



4. 6つの柱と8つの戦略と方針

将来像を実現するため、6つの柱に対応した8つの戦略と方針を以下の通り定めます。

柱	戦略	方針
価値	1. 儲かる富田林農業の成長促進	1) 農業経営力の維持・強化 2) 農業技術・設備等の支援 3) マーケット重視の川下戦略の支援
人材	2. 富田林農業を支える新たな多様な担い手の参入・活躍の推進	1) 後継者の育成と事業継承の支援 2) 新規就農者の育成支援 3) 企業・団体等の参入支援 4) 援農ボランティアの確保・育成
農地	3. 農地の保全と活用推進	1) 農空間の適正な保全と活用 2) 農地の有効活用の支援
健康	4. 市民の健康を支え、地域産業を育てる「地産地消」の推進	1) 市民が市内産農産物を購入できる機会の充実 2) 学校給食等での地産地消の推進 3) 市内事業者との連携による地産地消の推進
健康	5. 市民と農とのつながりの推進	1) 市民が農に親しみ健康になる機会の充実 2) 食育の推進 3) 学校等と連携した取組の推進 4) 企業等の健康経営に資する農の活用促進 5) 富田林農業に関する情報の発信と共有
環境	6. 地球を守る農空間の持続的保全	1) 多面的機能の維持発揮 2) 鳥獣害への対応 3) 生産緑地の適正な保全と活用
環境	7. 富田林農業における「みどりの食料システム」の推進	1) 環境を重視した持続可能な農業の推進
観光	8. 富田林の農業を活用した観光活性化拠点の育成	1) サバーファームの観光拠点としての再活性化

5. チャレンジプロジェクト

計画期間の前期5年間で重点的に取り組むプロジェクトを「チャレンジプロジェクト」として設定します。

① 未来の富田林農業を支える“強い担い手”の育成・支援プロジェクト

新規就農者や後継者などが、知識やネットワークを持ち、未来の富田林農業を支える担い手として、各関係者が一体となって育成・支援します。

② 富田林農業と企業等とのwin-winプロジェクト

本市農業の問題点と企業等のニーズ等をうまく組み合わせ、農業サイドと企業サイドの両方が得をし、その結果、本市農業も活性化する取組を進めます。

③ 富田林農業で“子どもの未来”を育むプロジェクト

農業者との交流、学校給食、農業体験などを通じて、子どもが農業を身近に感じ、かっこよく憧れに思う取組を進めます。